

# モルディブ共和国の「NATIONAL CURRICULUM」 にみる学校水泳の内容

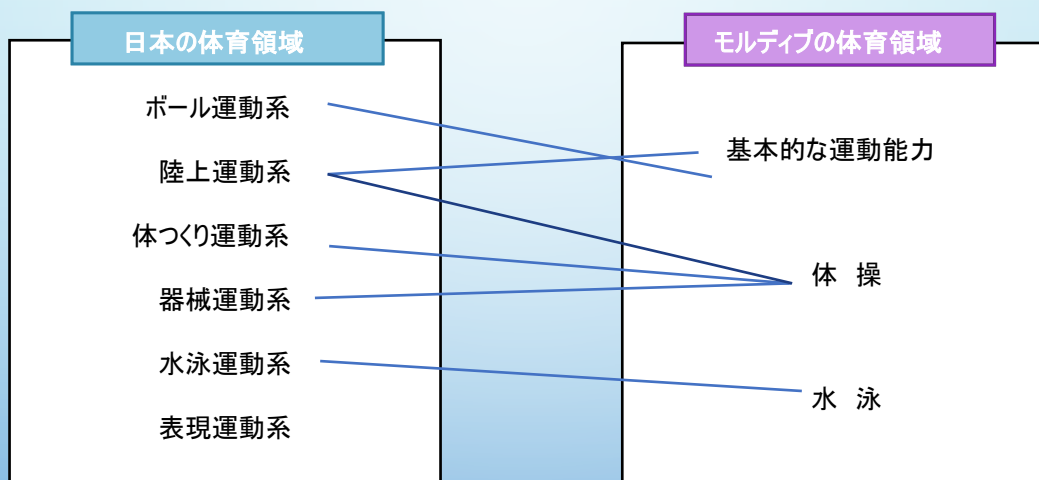
鳴門教育大学大学院学校教育研究科

仁木博子・松井敦典

## はじめに

- モルディブの“HEALTH AND PHYSICAL EDUCATION NATIONAL CURRICULUM”は2006年に第2回目の改訂を行い施行されている。
- これは、「身体的にも、精神的にも、感情的にも、そして社会的にも健康である」ことを目的としている。
- モルディブのカリキュラムは、1～3学年を第1ステージ、4～6年生を第2ステージとして縦断的な指導計画を作成している。
- 体育領域を「基本的な運動能力」、「体操」、「水泳」の3領域で構成。
- 学習時間：1～6年生 週2時間×45分

## 日本とモルディブの学習内容の比較



## 1～3年生(第1ステージ)の指導内容

	1年生	2年生	3年生
<b>目標</b>	水泳に関連した基本的な技術の習得と生き残る力を養う	水泳に関連した主な技術の習得と生き残る力を養う	基本的な水泳能力と生き残る力を養う
<b>入水離水</b>	怖がらずに水に入出りできる	プールの縁から出入りする	はしごから入水する
<b>浮く</b>	伏し浮き, またはけのびの姿勢から立ち上がる, または他の安全な姿勢に戻る	顔を水面に出して直立姿勢の状態でのスカリングする 30秒間スカリングする(腕/足)	スカリングをしながら頭の方向に進む 1分間スカリングをする
<b>泳ぐ</b>	足をつかないで何らかの移動方法(けのびばた足等)で3m移動する	初歩的な泳ぎで20m泳ぐ(クロール等)	2つ以上のストロークに類似した泳ぎで50m泳ぐ(リカバリーの時, 25mは腕を水面上に出す泳法で, 残りは水中で動かす)
<b>救急対応</b>	浮き具を持った状態で30秒間体を支え, その後助けを呼ぶ 救助者から浮き具をもらい, 安全に引っ張ってもらう	浮き具を持った状態で1分間浮き, その後安全にばた足で移動する ロープで引っ張ってもらい, その後安全な立位姿勢になる	浮き具を持った状態で泳ぐ 丈夫な物を使って安全にパートナーを引っ張る
<b>潜る</b>	完全に水面下に潜った状態で目を開け, 息を止める	胸の深さから潜り, 物を拾う	サーフェスダイブで潜り込み, 胸の深さの水底にある物を拾い上げる

### 4～6年生(第2ステージ)の指導内容

	4年生	5年生	6年生
目標	基本的なストローク、水中での技術、生き残る技術を養う	基本的な水泳能力、ストロークに関連した動き、生き残る技術を養う	認められている水泳のストロークで50m自信を持って泳ぐ能力を養う
入水	開脚入水する	さか飛び込み	さか飛び込み 深い水深で開脚入水
浮く	水面から顔を出した状態で体を回転させる 背浮きでスカリングしながら足の方向に進む スカリング、背浮き、立ち泳ぎの状態2分間いる	手や足の動きを用いて、また用いずに体を垂直や水平に回転させる 巻き足のキックをする スカリング、背浮き、立ち泳ぎの状態4分間浮いている	水中で前回りや後ろ回りを行う
泳ぐ	リカバリー時に水面に腕を出す動きで連続して50m泳ぐ(クロール等) リカバリー時に水中に腕がある状態で25m連続して泳ぐ(平泳ぎ等) バタフライの腕の動きで5m進む	連続して泳ぐ ・25m自由形 ・25m背浮き泳ぎか横泳ぎ ・25m背泳ぎ 正しい呼吸法を伴ったバタフライを10m泳ぐ 足から飛び込み、潜水泳ぎをする	連続して泳ぐ ・50m横泳ぎ ・50m背泳ぎ ・50m平泳ぎ ・50m自由形 バタフライで15m泳ぐ(効果的な動き・正しい呼吸)
救急対応	救助具を5m投げる		危険を回避するために50mをできるだけ速く泳ぐ
潜る	サーフェスタイプで潜り込み、身長分の深さの水底にある物を拾い上げる		

### 日本とモルディブの水泳指導内容(低学年)

	1年生	2年生
目標	水泳に関連した基本的な技術の習得と生き残る力を養う	水泳に関連した主な技術の習得と生き残る力を養う
入水離水	怖がらずに水に入出りできる	プールの縁から出入りする
浮く	伏し浮き、またはけ伸びの姿勢から立ち上がる、または他の安全な姿勢に戻る	顔を水面に出して直立姿勢の状態での腕のスカリングする 30秒間スカリングする(腕/足)
泳ぐ	足をつかないで何らかの移動方法(けのびばた足等)で3m移動する	初歩的な泳ぎで20m泳ぐ(クロール等)
救急対応	浮き具を持った状態で30秒間体を支え、その後助けを呼ぶ 救助者から浮き具をもらい、安全に引っ張ってもらう	浮き具を持った状態で1分間浮き、その後安全にばた足で移動する ロープで引っ張ってもらう、その後安全な立位姿勢になる
潜る	完全に水面下に潜った状態で目を開け、息を止める	胸の深さから潜り、物を拾う

Japan

	低学年	
技能	次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。	ア 水の中を移動する運動遊びでは、水につかって歩いたり走ったりすること。 イ もぐる・浮く運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら水にもぐったり浮いたりすること。

## 日本とモルディブの指導内容の比較（低学年）

### 日本

- 「水遊び」: 水につかって歩く, 走る, もぐる, 浮く
- 遊びを通じた指導で, 水に親しみながら水慣れをする



水慣れを通して不安感を取り除き, もぐる・浮くことなどの基本的な動きを身に付ける

### モルディブ

- **自分で水深を見ながら, 安全確認した状態で入水・離水を行う**
- 泳ぐ姿勢から安全に立つことまでを指導
- **緊急時の指導を1年生から。**



水泳授業は命を守るために行う, 自分の命は自分で守る, 緊急時に対応できる指導

## モルディブと日本の指導内容（中学年）

Maldives

	3年生	4年生
目標	基本的な水泳能力と生き残る力を養う	基本的なストローク, 水中での技術, 生き残る力を養う
入水	はしごから入水する	開脚入水する
浮く	スカリングをしながら頭の方向に進む 1分間スカリングをする	水面から顔を出した状態で体を回転させる 背浮きでスカリングしながら足の方向に進む スカリング, 背浮き, 立ち泳ぎの状態ですぐに2分間いる
泳ぐ	2つ以上のストロークに類似した泳ぎで50m泳ぐ(リカバリーの時, 25mは腕を水面上に出す泳法で, 残りは水中で動かす)	リカバリー時に水面に腕を出す動きで連続して50m泳ぐ(クロール等) リカバリー時に水中に腕がある状態で25m連続して泳ぐ(平泳ぎ等) バタフライの腕の動きで5m進む 3つの泳法に類似した泳ぎで1分毎にストロークを変えながら3分間ゆっくり泳ぐ
救急対応	浮き具を持った状態で泳ぐ 丈夫な物を使って安全にパートナーを引っ張る	救助具を5m投げる
潜る	サーフェスダイブで潜り込み, 胸の深さの水底にある物を拾い上げる	サーフェスダイブで潜り込み, 身長分の深さの水底にある物を拾い上げる

Japan

	中学年	
技能	次の運動の楽しさや喜びに触れ, その行い方を知るとともに, その動きを身に付けること。	ア 浮いて進む運動では, け伸びや初歩的な泳ぎをすること イ もぐる・浮く運動では, 息を止めたり吐いたりしながら, いろいろなもぐり方や浮き方をすること。

## モルディブと日本の指導内容の比較(中学年)

### 日本

- 初歩的な泳ぎ(近代泳法の前段階となる呼吸しながらのばた足やかえる足泳ぎ)により手や足を使って進む指導
- 水中で様々な浮き方やもぐり方ができるよう指導



もぐる・浮くことなどの基本的な動きや技能を身に付ける指導

### モルディブ

- **スカリング**等を行い、水中で**直立姿勢**の状態を保つ
- 動きのフォームにはとらわれず、リカバリー時の腕の位置を意識しながら泳ぐ
- **サーフェスダイブ(推進力)**での潜り込み



水中で安全な姿勢になったり泳いだりできるように指導

## モルディブと日本の指導内容(高学年)

Maldives

	5年生	6年生
目標	基本的な水泳能力、ストロークに関連した動き、生き残る技術を養う	認められている水泳のストロークで50m自信を持って泳ぐ能力を養う
入水	<b>さか飛び込み</b>	<b>さか飛び込み</b> 深い水深で <b>開脚入水</b>
浮く	手や足の動きを用いて、また用いずに <b>体を垂直や水平に回転</b> させる <b>巻き足のキック</b> をする <b>スカリング</b> 、背浮き、 <b>立ち泳ぎ</b> の状態 <small>で4分間</small> 浮いている	水中で前回りや後ろ回りを行う
泳ぐ	連続して泳ぐ •25m自由形 •25m背浮き泳ぎか <b>横泳ぎ</b> •25m背泳ぎ	連続して泳ぐ •50m <b>横泳ぎ</b> •50m背泳ぎ •50m平泳ぎ •50m自由形
	正しい呼吸法を伴ったバタフライを10m泳ぐ 足から飛び込み、潜水泳ぎをする 3つのストロークを用いて <b>6分間</b> ゆっくり泳ぐ(腕を上げてリカバリーする泳ぎ、腕を上げずにリカバリーする泳ぎ、背泳ぎ)	バタフライで15m泳ぐ(効果的な動き・正しい呼吸)
救急対応		<b>危険を回避するために50mをできるだけ速く泳ぐ</b>

Japan

	高学年	
技能	次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付けること。	ア クロールでは、手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐこと。 イ 平泳ぎでは、手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐこと。 ウ 安全確保につながる運動では、背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く泳ぐこと。

## 日本とモルディブの指導内容の比較（高学年）

### 日本

- 続けて長く泳ぐ
- 泳ぐ距離や浮いている時間を長くする
- 安全確保につながる指導



手と足の動かし方や呼吸動作などの基本的な技能を身に付ける

### モルディブ

- 水中で長い距離を速く、また長時間泳げるように指導
- 水中で長時間**身体の状態を保持**できる（浮いている）ように指導



水中で長く泳ぐ力と生き残る力を身に付ける

## モルディブの水泳指導

- 海で指導→半人工的環境（浮き桟橋で囲まれた水域、自然の海底）  
姿勢の保ち方、緊急時の対応を入念に指導
- 横泳ぎ：クロール～背泳ぎのつなぎの動き周りが見える、物を持って泳げる
- 目標の明確化：各学年での課題がはっきりしており、児童も意欲的に取り組める。
- ……できない子はどうしている？
- スポーツのために泳ぐのではない、命を守るために泳ぐ
- 体育専科による指導であるため、指導内容についてさほど詳細に表記されていない

## 日本の水泳指導

- ・学級担任による指導→指導のビデオ詳細⇔指導内容多い
- ・日本の評価観点は知識及び技能だけでなく、思考・判断、態度の観点でも評価
  - ⇒技能の内容に関しては単純化して表記されている
- ・プールという環境でどう水に慣れていくか
  - 安全が確保された状態、足がつくことが前提
  - 川や海など、溺れた時にどのような対応をするのか
- ・泳ぎの型を意識した、分習法的指導
- ・具体的な到達目標は示していない、スキルチェックも行わない
  - 個々の能力差に配慮？

## これから

- ・日本とモルディブでは水と生活とのつながりが質・量ともに異なる
- ・現地の実態に即した指導ができるように、指導理念の共通理解を図るとともに、日本のいい所を生かしながらより良い授業、カリキュラム作成ができるようにする。
- ・安全第一の水泳指導の中で、児童が楽しみながら多様な能力を育めるように、ねらいの共通理解を図りながら一貫した指導が行えるようにする。

## 参考文献

- [HTTPS://WWW.YOUTUBE.COM/WATCH?V=YCJOBWOPB3O](https://www.youtube.com/watch?v=YCJOBWOPB3O)(1年生)
- [HTTPS://WWW.YOUTUBE.COM/WATCH?V=SPRSGXPJSIQ](https://www.youtube.com/watch?v=SPRSGXPJSIQ)(2年生)
- [HTTPS://WWW.YOUTUBE.COM/WATCH?V=VDROJTJ4SOA](https://www.youtube.com/watch?v=VDROJTJ4SOA)(3年生)
- [HTTPS://WWW.YOUTUBE.COM/WATCH?V=XDAUUX4NRRW](https://www.youtube.com/watch?v=XDAUUX4NRRW)(4年生)
- [HTTPS://WWW.YOUTUBE.COM/WATCH?V=RT1HUHT69KI](https://www.youtube.com/watch?v=RT1HUHT69KI)(5年生)
- [HTTPS://WWW.YOUTUBE.COM/WATCH?V=8HAAJAXNULA](https://www.youtube.com/watch?v=8HAAJAXNULA)(6年生)
- [HTTPS://WWW.MOE.GOV.MV/ASSETS/UPLOAD/HEALTH AND PHYSICAL EDUCATION KEY STAGE 1.PDF](https://www.moe.gov.mv/assets/upload/health_and_physical_education_key_stage_1.pdf) (1～3年生)
- [HTTPS://WWW.MOE.GOV.MV/ASSETS/UPLOAD/HEALTH AND PHYSICAL EDUCATION KEY STAGE 2 SYLLABUS.PDF](https://www.moe.gov.mv/assets/upload/health_and_physical_education_key_stage_2_syllabus.pdf) (4～6年生)
- 小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説